昭和十六年
三月

初卒業

幼稚園の修了は、學校の卒業といふことゝ一つではありませんが、でも、お子さん達は卒業々々といつて喜んでゐられるし、その方が可愛いらしく聞へたりしますね。兎に角く、二年なり三年なり一年なり、日課としてつゞけて來た通園が豫定どたり了つたのですから、お子さんとしても、さぞ嬉しくもあり得意でもありませう。その心持ちは、今日で幼稚園はお仕舞ひよといふだけでは濟まされません。殊に、生れて初めて斯ういふ式の形で送られるのですから、晴れの卒業として存分に祝つて上げたくなりますね。

それに、幼稚園の方としては、形は遊びのやうでも、その中に盡された先生方の日々の心づかひは、そのお子さんの就學前の教育といふ大切なことを卒へて下さつたのですから、その御苦勞に對する感謝は、學校の卒業式の場合と全く同じ譯のものです。たゞ、何を覺えた、何が上手になつた、何の資格を得たといつたやうな、目に見えたものがない爲に、幼稚園の先生の御恩が、學校の先生の御恩の如くくつきりと數へあげられない風ですけれども、その數へあげられないところに、測れない深いものがあります。何にしても、お子さんにも先生にも、心からお目出度い三月です。

幼稚園から

○三月は、幼稚園の、うれしくもあり悲しくもある月です。入園はつい此の間と思ふのに、こんなに大きくしつかりなさつて、もう小學校、いゝえ、國民學校にいらつしやるのかと思ふと、更めてお顏をしげ〳〵と見たくなる程うれしいことです。けれどまた、毎日あんなに樂しく遊んだのに、今月でもうお別れかと思ふと、ぐつと強く抱きしめたいやうな氣がします。が、そんなことはもう申しますまい。お子さんに、悲しい顏なんか見せてはなりませんからね。

○それでも、先生有り難うございましたなんて言はれることがあると、全くたまらなくなります。それはお母さまからお習ひになつたお言葉でせうが、お禮を言ひたいのは私達の方からこそです。可愛いゝ、心の清い皆さんのお陰で、毎日いい日を送らせていただいたのですもの。